

会 議 録				
平成27年度第3回 在宅医療・介護連携 推進会議	日 時	平成28年2月18日(木) 午後7時00分～8時20分	場 所	小金井市役所 第2庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	齋藤寛和委員長(小金井市医師会会長) 新田委員(小金井市歯科医師会) 森田委員(小金井市薬剤師会) 齋藤優喜子委員(桜町病院 地域医療連携室医療福祉相談係) 岩井委員(のがわ訪問看護ステーション) 川崎委員(陽なた居宅介護支援事業所) 武市委員(介護老人保健施設 小金井あんず苑) 山口委員(東京都多摩府中保健所 地域保健推進担当課長)		
	事務局	増田(小金井きた地域包括支援センター) 山岸(小金井ひがし地域包括支援センター) 黒木(小金井みなみ地域包括支援センター) 久野(小金井にし地域包括支援センター) 鈴木(介護福祉課 高齢福祉担当課長) 本木、黒川(介護福祉課 包括支援係)		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	1人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 高齢福祉担当課長 挨拶				
2 議題				
(1) 「主治医・ケアマネジャー連絡票」のアンケート結果について				
(2) ICTの進捗状況について				
(3) 「ケアマネタイム」「認知症協力医療機関」「在宅医療協力医療機関一覧」更新について				
(4) 「東京都認知症多職種協働研修」の報告				
(5) 「介護サービス利用ガイドブック」更新について				
(6) 意見交換				

1 鈴木高齢福祉担当課長 挨拶

2 議題

(1) 「主治医・ケアマネジャー連絡票」のアンケート結果について

(川崎委員)

昨年10月23日、居宅のケアマネジャーと病院のMSWさんとの連携の研修会において、口頭で説明をさせていただきました。MSWさんのほうにも、「今後こういった書類が病院に行くと思います」ということを伝えております。

1月下旬から居宅支援系グループの会員宛てに、アンケートをとり、40事業所のうち返答があったのは約半数の事業所で実際使った方はその半数でした。利用した方に関しては、なかなか好感触で便利だなという意見がありました。それとは別に、以前あったシートをずっと活用されている方もおられて、なぜ今ごろ同じものという御意見もありました。ただ、このシートがあること自体を忘れてしまって使っていないという現状もございます。全体的に、まだまだ浸透していないというのが感想です。今後は、居宅のグループ会等々で、周知していければと思っております。

(齋藤寛和委員長)

では、機会があるごとに連絡票の存在を啓蒙していただいて、使っていただくとということで、医師もなるべく反応するように周知していきます。

(2) ICTの進捗状況について

(齋藤寛和委員長)

昨年10月にネットワーク事業のキックオフミーティングを開き56名の方に参加していただきました。MCS（メディカル・ケア・ステーション）を利用した在宅医療介護連携システムの構築手順は、「小金井市の医療介護連携グループ」という大きなグループを立ち上げ、全ての参加者に登録をしていただくと、主治医がこの中から関係者を招待して、個々の患者さんのグループに、ケアマネさんやヘルパーさんや訪看さんが、そのグループに入ってくる形を目指しています。今、総勢38人ぐらいが登録していますが、患者さんのグループは、まだ一つしか立ち上がっていません。

多職種から登録者をいかに増やしていくかが今後の課題です。

(3) 「ケアマネタイム」「認知症協力医療機関」「在宅医療協力医療機関一覧」更新について

(齋藤寛和委員長)

平成25年ぐらいに第1回目を作成後何回か更新し、去年の12月に全て新しく更新しています。

「ケアマネタイム」の希望連絡方法では面会がなく、とても敷居が高くて誰も連絡がとれないという意見があったため、ほぼ全部面会可になりました。それに至るまでの連絡方法ということで電話、FAX、メール、郵送という理解にしてもらいました。

「認知症協力医療機関」は小金井太陽病院がなくなって4つになってしまいました。が、こちらも備考はかなり充実してきました。

「在宅医療協力医療機関」のリストも、内容については、結構多くのことができるころが増えていています。これについても、医師会のホームページに、すぐに出てくるようにアップされています。市民の方も、あるいは介護職の方々もこれを見て、どこの診療所はこのようなことをやっているからここに頼んでみようかということがたやすくなったのではないかと思っております。

(事務局・本木)

「在宅医療一覧表」というのは、これまで市民の御希望の方には医療機関名と住所のみの一覧を渡し、事前に医療機関に直接御相談くださいということをつけ加えた上で、情報提供をさせていただいていました。ただ、今回は会長の御尽力により、さらに一歩踏み込んだ形で情報公開ができ、かなり充実した内容でつくっていただきましたので、ぜひ市及び包括支援センター、関係機関でも、さらなる連携と市民のためのメリットというところで活用をさせていただきたいと思えます。

(齋藤寛和委員長)

在宅診療のリストは、ほかの医師会でもアップするかどうかというのはちょっと議論のあるところだったという話も聞いています。一つには、これを見て「全然知らない患者さんが来てくれ」といった時にどうするかということがあって、どのような患者さんか全然わからないということになります。小金井では大丈夫でしょうと。

それから、一つの宣伝になってしまうのでまずいのではないかという考えもあったのですが、それよりも在宅医療を進めていくためにはこういう形で出してしまおうということをお願いしたところ、ここに出した先生方は、皆さんホームページに出すことに了解戴きました。

(森田委員)

例えば在宅をお探しの方へ、みたいな感じでホームページを見ると、医師をお探しの方はこちら、薬局をお探しの方はこちら、訪問歯科診療の方はこちら、そもそもケアマネジャーさんとか包括はこちらみたいなところで、宣伝になるという先ほどの先生の言葉もあったのですけれども、市のほうに誘導しやすいようにできないものか。医師会のホームページは、市民の方はあまり見ないと思うので、1カ所にまとめるの

はどうなのでしょう。

(事務局・本木)

どこまで対応できるか、情報システムが管理をしておりますので、そちらのほうとも調整をさせていただいて、前向きに検討をしていきたいと思います。そういうIT化のほうでももちろん大事なことだと思いますが、御高齢の方はパソコンを使えないという方もいらっしゃいますので、例えば窓口で相談があったときに紙ベースのものも用意していくようにいたしますので、そこで提供できるというように、あらゆる方法で考えていきたいと思っております。

(4) 「東京都認知症多職種協働研修」の報告

(事務局・本木)

1月25日の夜に、萌え木ホールで「東京都認知症多職種協働研修」が小金井市医師会、杏林大学、小金井市共催で開催されました。出席者数が総勢86名で、最初に杏林大学の長谷川先生から講義が20分程度ありまして、本当にさまざまな職種の方が一つのテーブルの中に混在しているという形で、最初からとても活発に意見が交わされていて、途切れることなく時間が足りないような感じで、最後に発表もありましたが、ほとんどのグループが手を挙げて自ら発表いただくという、本当にいい流れだったと思います。

(森田委員)

参加した感想は、楽しかったです。医療者側は病気とか疾患という目で見ますし、介護側はその人の生活というところ、どちらも重なる部分はあるのだろうなと思ったのですが、そういうところでも違いが出るのだなというのをやりながら感じていました。

(岩井委員)

顔が見えるということ、特にドクターの顔がわかるというところと、同じテーブルで気さくに話せるというのが、今後連携をとっていく上ですごくよかったのではないかと思います。参加してくる方は意識がそれなりに高い方たちなので、そうでない人が出てこられるような場になっていくといいかなと感じました。

(武市委員)

先生に対しての敷居が少し低くなった感じがあると思います。ですから、こういったことを続けることによって、ふだんの診療とかケアの中で生かせればと思いました。

(川崎委員)

単純に、本当に楽しかった。多方向からの視点は大事だなというのを改めて感じることができた研修だと思います。

(事務局・増田)

今回、医師会の先生や薬剤師さんの参加がとても多く、在宅への関心がだんだんできてきているということが感じられた。ケアマネさんたちも、先生とすごく話しやすかったという意見が本当に多かった。連携するところで敷居の低さができるので、継続ができると思った。

(齋藤寛和委員長)

実は去年、本当は小金井がこの研修会を最初にやる予定だったのですが、私が断ってしまったのです。時期尚早だということで、医師会員も集まらないし、1年延ばしてくれということで今年にしたのです。今回私も医師会員が結構積極的だったのでびっくりした。ちょっと前途に光明が見えてきた。若い先生も来てくれて、将来、在宅医療を背負って立ってけると期待している。

(5)「介護サービス利用ガイドブック」更新について

(事務局・本木)

「介護サービス利用ガイドブック」は現在、介護保険を使う場合のサービス事業者さんに限定された内容です。できればこの医療版があったらいいと思っております。来年度は予算を増やさない形で、課の中で知恵を絞り、科を問わず、登録されていないところについても一軒一軒確認をして、了承いただいたところについて、掲載する予定としております。

(齋藤寛和委員長)

他の会議の時「介護サービス利用ガイドブック」の説明をしてもらって、いろいろな種類の施設が全て網羅されていて、これを見ながら質問をすると非常に理解が深まったなと思いました。医者の方から言うと、施設もいろいろなものがあって、介護保険の世界は全然わからないのですね。ここにはそれが全部書いてあるので、これは何、これは何と聞けるのでとてもいいなと思いました。

医師会では「地域包括ケア講演会」をやっており、第4回は認知症のケアについて永田久美子先生の講演を、宮地楽器ホールの小ホールでセッティングをいたしました。オープニングリマークスに桜町病院の寺田先生、司会の方はつるかめクリニックの三澤先生で、クロージングを武蔵野中央病院の牧野先生にお願いしてあります。

(武市委員)

ことしも11月4日金曜日、介護の日のイベントを企画しています。

(齋藤寛和委員長)

市民への啓蒙ですね。我々としては、もう市民の方は地域包括ケアシステムをよく知っていると思ってしまうのですけれども、実は何も知らないのですね。

東京都医師会の会長が日本医科大学で、3年生だか4年生だかを対象に、学生が110人ぐらいいるのですけれども、地域包括ケアシステムについて講義をしたのですが、地域包括ケアシステムという言葉を知っている人は3人ぐらいしかいなかったということでした。2025年問題を知っている人は、10人近く知っていたということですが、そのような状態ですから、毎年毎年積み重ねていくことがきっと大事なのでしょう。

(齋藤寛和委員長)

今後、武蔵野市の医療と介護の連携室を見学する予定です。

(山口委員)

保健所はどのくらい進んでいるか、マル・バツで表をつくって、それで出させていただいています。実は小金井市さんも会議体を立ち上げて、12月末時点ではバツだったものがマルに変わるところがあって、ほぼ全部マルなのですね。

やはり本当に市の事情でそれぞれがやっているところがありますし、この地域包括ケアシステムというのは、その市その市によって、その地域によって形も変わるというのはしようがないかなと思っていますし、本当の小金井の特色をちゃんと生かしながらそういう体制をつくるというのが本当に一番大事だと思います。

(齋藤寛和委員長)

連携を深めていくには、やはり顔の見える関係から、心の中も見える関係と言っていましたけれども、そういったものを構築するためにも、今回認知症でやったような多職種協働研修、グループワークが非常に有用であろうと思われまますので、それを在宅でやる。今回やるのは、地域包括ケアシステム化研究会という私的な会ですが、メンバーのかなりがこの会と一緒にいるので、それもみんなで一緒にやっていくような感じでやっていきたいと思っていますし、認知症のほうも、多分、夏ぐらいには疾患医療センターが決まりますので、そこに頑張ってもらって、研修会、そしてこの会も関与するような感じでやっていければいいかなと思います。

ICTのほうは、研修会をどんどん開いていって、啓蒙していくという形をつくりたいと思っていますし、それもまたこの会で報告することになると思います。

ほかにもいろいろやられたことを報告していただいて、また拾い上げていって、この人たちの力で拡充させていければいいかなと思います。